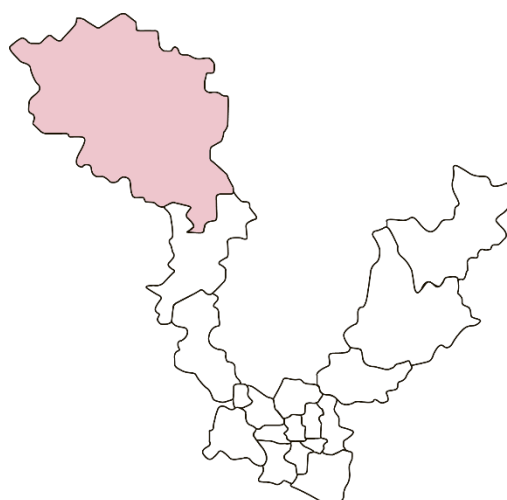


⑬板取支部社協

地域の概況	(R6.4月現在)
人口	900 人
世帯数	470 戸
高齢化率	63.8%
年少人口比（0 歳～14 歳まで）	2.8%
民生委員・児童委員数	11 人
福祉委員数	15 人



地域の魅力

- 長良川の支流、板取川の最上流部に位置する板取地域は、関市総面積の 39%を占め、そのうちの 98%が山林で占められています。近年マスコミやSNSで話題となっている「モネの池」や両白山地随一溪谷美を誇ると評される川浦溪谷、全国的にも希少となっているウラスギである「株杉」の群生地など自然と人が作り出した景勝地を多く有する地域で、市内で唯一日本海性気候体に属する地域です。昭和 28 年からキャンプ場が開かれるなど、自然を活かした環境産業が盛んです。

地域の課題

- 令和 4 年には、人口が 1,000 人を下回り、高齢化率も 60%を超え、こどもの数は急激に減少し、平成 28 年には中学校が、令和 6 年度には保育園が、それぞれ洞戸地域と統合し、板取ではこどもの集う場所は小学校だけとなっています。
- 後期高齢者が大幅に増加し、それに伴って独居高齢者世帯や高齢者のみの世帯も増加の一途で、老老介護も顕在化しています。
- 新型コロナの影響もあって、ひきこもりの高齢者が増加しています。
- 高齢化に伴い、地域各所で行われてきた伝統的な各種行事が開催困難となっています。
- 高齢化と担い手不足から、社協役員や福祉委員に限らず、各種の役職の世代交代が進まない状況になっています。

地域住民で出来る事

- 住民同士での見守り
- 軽運動や茶話会などの集まり
- 自治会での行事や配付物の配布時の安否確認
- お出かけツアーや買い物のツアーの実施



<そばサロン>

支部社協が目指す地域の姿

可能な限り住み慣れた地域で楽しく安心して人生の最後まで暮らしていけるようになることを目指します。